



株式会社スターフライヤー
2019年3月期 上期決算説明会
2018年11月8日(開催予定)



STARFLYER

東証二部 証券コード：9206

2018年10月31日

I. 2019年度3月期 上期実績	P.4
-------------------	-----

II. 2019年度3月期 通期業績予想	P.16
----------------------	------

III. 台北線開設	P.20
------------	------

当資料に関する注意事項

- ・本資料は、決算および中期経営戦略を補足説明するためのものです。本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
- ・本資料は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断です。重大なリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。新しい情報、将来の出来事その他の事情により、見通し情報に更新または変更が望ましい場合であっても、弊社はそれを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。正式な業績予想は、東京証券取引所規則に基づく決算短信等での開示をご参照ください。
- ・新規路線の就航は、各国政府ならびに関係諸機関の許可・承認が必要であり、弊社が希望するとおりの路線・ダイヤで就航できるとは限りません。弊社の主要事業である航空運送事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、販売価格、経済環境の動向、原油価格・外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。したがって、弊社が設定した目標または施策は、全て実現することを保証するものではありません。

①当上期は、高水準で推移した原油価格や人員増加に伴う人件費増、国際線開設準備のための初期費用を主因に、利益は対前年同期比で大幅減益となるが、計画に対してはほぼ期初予想どおりに推移し、好調を維持。

国内線の旅客数増を主因に、営業収入は増加。

②国際線は期初予定（3路線）より就航路線数が変わる（2路線）が、国内線旅客数の増加等により通期業績予想には変更なし。

今後人も人財育成や安全への取り組み、知名度向上に重点を置いていく。

③10月28日より就航の国際線は、販売開始が遅れたものの、期初予想どおりの予約状況で手応えあり。3年目の国際線の黒字化を目指す。

企業理念

私たちは、安全運航のもと、人とその心を大切に、
個性、創造性、ホスピタリティを持って、『感動のあるエアライン』であり続けます

安全憲章

安全運航は、私たち航空輸送に従事するものの至上の責務である
また安全運航は、航空輸送を営む我が社の使命であり、事業の基盤である
私たちは、持てる知識、経験、技量を活かし、叡智を尽くして安全運航を維持し続ける

行動指針

安全運航に徹します

コンプライアンスを徹底します ※

自らの仕事に責任と誇りを持ちます

お客様の視点から発想し、創造します

仲間とともに輝き、ともに挑戦します

感謝の気持ちと謙虚さをもって人と社会に接します

安全運航のための行動指針

規則を遵守し、基本に忠実に業務にあたります

一つひとつの作業を的確、確実に行います

推測によることなく、必ず確認します

不安があれば必ず報告、相談し、解消します

常に問題意識を持ち、不安全要素を未然に排除します

I . 2019年3月期 上期実績

STARFLYER

個別戦略	主な取組み課題	実績	評価
運航品質	<ul style="list-style-type: none"> ■ お客様とのあたりまえ品質の約束 -就航率/定時性の継続的向上 ■ 新オペレーション体制 -イレギュラー運航の発生時などに各機能(部門)が協調し、より最適な判断が速やかにできる運営体制への移行 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上期 就航率 98.0%（前年同期99.4%）低下（主に台風影響） ■ 上期 定時出発率92.7%（前年同期91.2%）向上 ■ 7月よりオペレーション関連機能を集約・オペレーション統括責任者を配置 様々なオペレーション状況に即応できる体制での運営を開始 	○
マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> ■ コアとなるスターフライヤーファンを増やすための取組み ■ 強いスターフライヤーブランドを作るための取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ターゲット別キャンペーンの実施 ■ 新会員サービスの導入 ■ ブランド認知度向上（就航地におけるイベント等） ■ 一貫したイメージ訴求の継続 	○
ネットワーク、 機材・プロダクト	<ul style="list-style-type: none"> ■ 北九州＝那覇線の継続運航 ■ 国際定期路線への参入 ■ 航空機2機受領 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 北九州＝那覇線 3/25～5/7:1往復, 7/13～10/27:2往復に増便 11/16～3/30: 1往復 ■ 北九州・名古屋（中部）の2空港から台北（台湾桃園）へ就航 ■ 2018年6月と10月に航空機受領 	○
人財	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際線就航に向けた社内体制の構築 ■ 「働き方改革」の実行 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人財開発準備室を人財開発室に改め、「採用」～「基礎教育」を通じ、将来を担う人財づくりに着手 ■ 安全とCSを体現した人財育成のため、おもてなしセンターを設置 ■ 社員同士が互いに刺激しあい、ともに成長してゆくための環境づくりとしてオフィス改革を実施 	◎
財務	<ul style="list-style-type: none"> ■ 更なる財務基盤の強化 ①純資産の積み上げを図る ②成長戦略に必要な投資等を積極実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2018年度上期純利益を確保 ■ 2018年6月・10月導入機に加え、2019年1月のリース契約満了を延長し、機材数増 	○



■ 2018年9月からマイレージ会員プログラム「STAR LINK MEMBERS」を刷新

新規入会数 (2018年9月) :

対前年同月比 **220.6%**

新サービス登場



クーポンのご利用で
会員サービスも充実

機内や旅先でも使えるクーポンで、
より快適な旅をお届けします。

新公式アプリ登場



公式アプリのご利用で
旅がよりスマートに

ご予約便の情報や
運航情報・マイレージなどが、
簡単に確認できます。

新プレミアムステータス登場




ランク	1月1日～12月31日までの搭乗回数
VEGA	ご搭乗回数 30回以上
ALTAIR	ご搭乗回数 10回以上

ステータスに応じて
優先搭乗のご案内や、
搭乗マイルの積算率もアップします。

※一部のサービスは、会員ステータスに応じてご利用いただけます。
※国際線ご利用時は、ご予約情報および運航情報は表示されません。

1ヶ月で **1** 万ダウンロード突破

計画前提条件（外的要因）

当初 為替レート・・・<1米ドル> 110.0円、
 10月見直し 為替レート・・・<1米ドル> 110.0円、

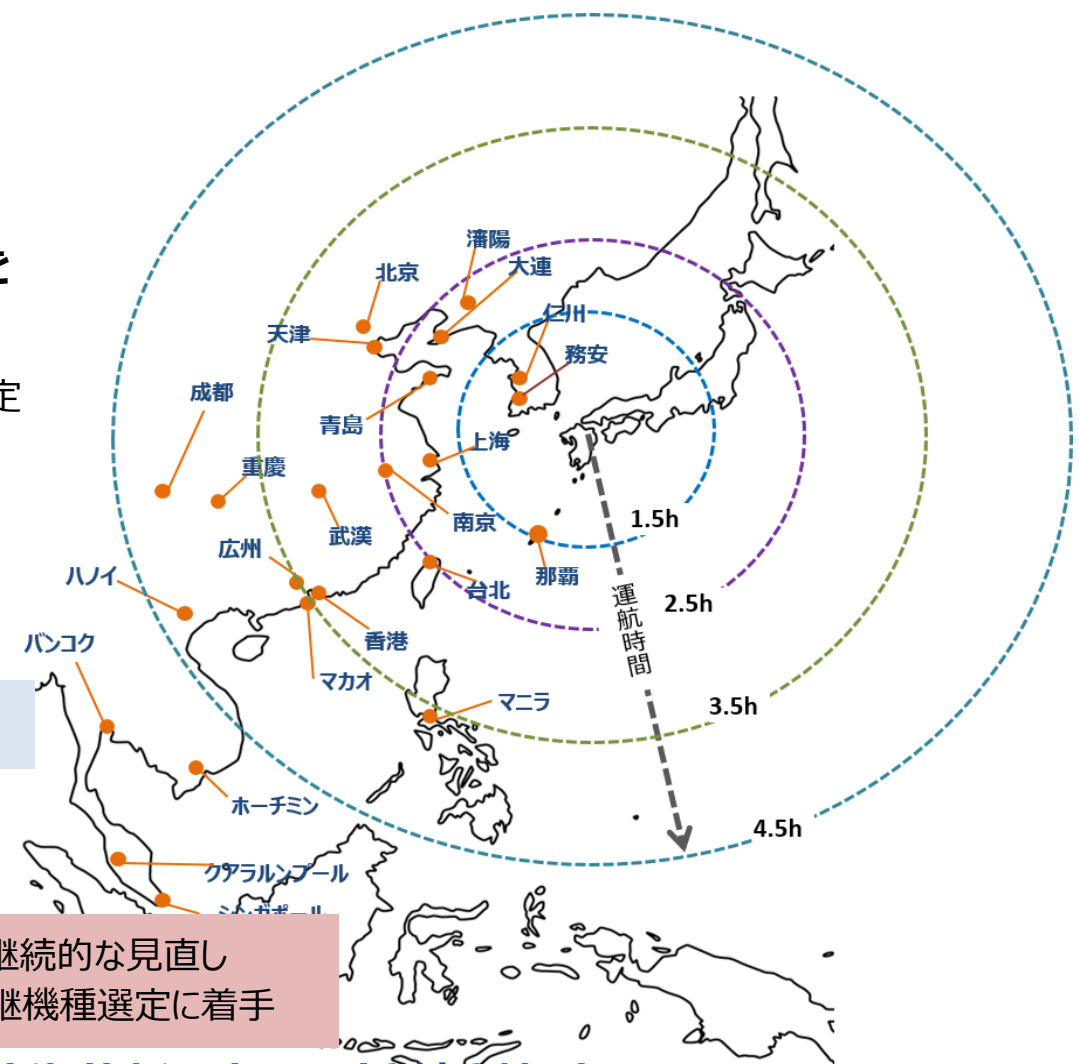
原油価格レート（ドバイ）・・・63.0ドル／バレル
 原油価格レート（ドバイ）・・・73.0ドル／バレル

ネットワーク戦略

- 2018年冬ダイヤも1日1往復 北九州－那覇線を継続運航
- JA05MCについて、2019年1月までのリース期間を延長

機材・プロダクト戦略

2019年度末13機へ増機予定



今後

- ・ネットワーク戦略と連動した機材導入・退役計画の策定および継続的な見直し
- ・2020年以降の機材更新や増機に備え、現行A320ceoの後継機種選定に着手

今後の導入機材の仕様についても、路線展開や技術革新に応じ、引き続き検討

生産量増加＋集客好調により増収一方で、

原油価格上昇、人員増加に伴う人件費増、国際線開設準備など費用増が上回った

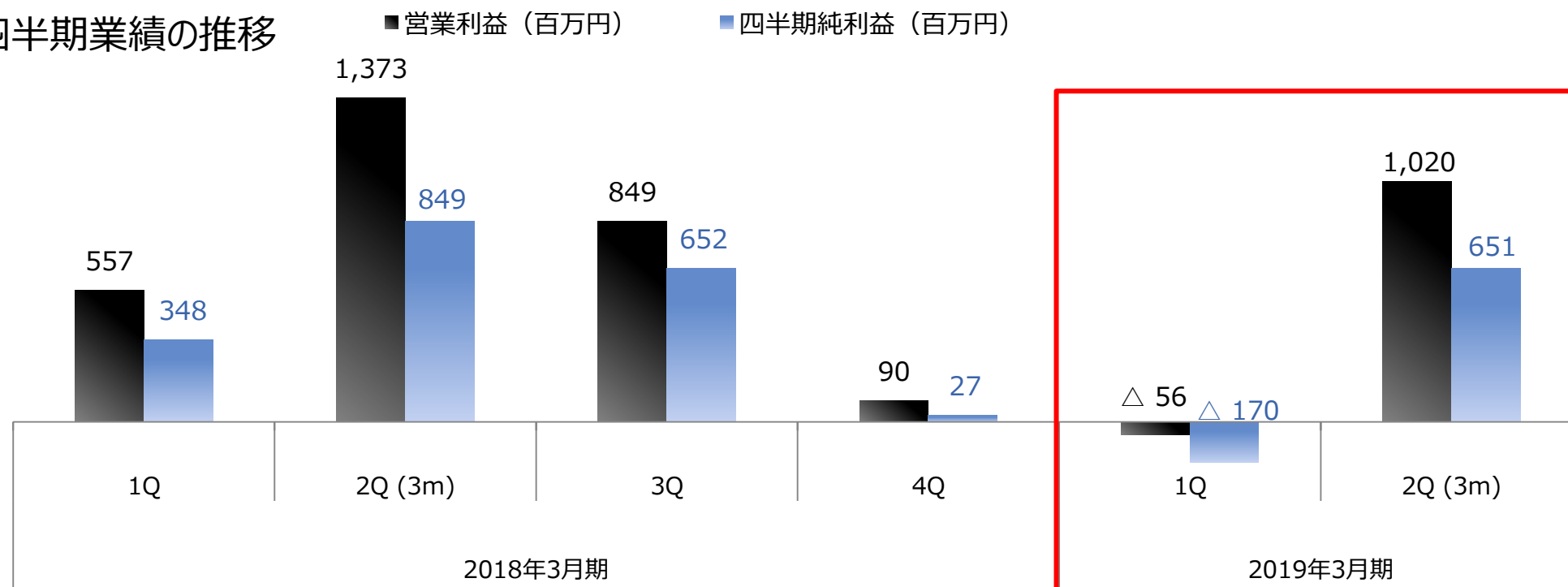
(単位：百万円)

	2018.3期 2Q累計	2019.3期 2Q累計	対当初計画 進捗率	前期比	増減額	
営業収入	18,963	19,509	49.1%	+2.9%	+546	
営業利益	1,930	964	80.3%	△50.0%	△965	
経常利益	1,908	993	90.3%	△47.9%	△914	
四半期純利益	1,198	481	48.2%	△59.8%	△716	
EPS (円)	418.09	168.11	48.2%	△59.8%	△249.98	
営業利益率(%)	10.2	4.9	—	△5.2pt	—	
実績・ 前提条件	ドバイ原油価格 (ドル/バレル)	49.72	70.77	—	+42.4%	—
	円ドル為替レート (円/ドル)	111.45	109.30	—	△1.9%	—

2018年度上期の四半期業績

	第1四半期 (4~6月期)	第2四半期 (7~9月期)
営業利益	△ 56 百万円 (前年同期比 △613 百万円)	1,020 百万円 (前年同期比 △352 百万円)
四半期純利益	△ 170 百万円 (前年同期比 △518 百万円)	651 百万円 (前年同期比 △197 百万円)

四半期業績の推移



- ・北九州＝那覇線の2往復化および臨時増便で、生産量（ASK）増加
- ・集客が順調に推移し、旅客数増を主因として増収

（単位：百万円）

販売実績

		2018.3期		2019.3期		前期比
		2Q累計	構成比	2Q累計	構成比	
航空運送 事業収入	定期旅客運送収入	18,707	98.7%	19,309	99.0%	+3.2%
	貨物運送収入	107	0.6%	95	0.5%	△10.9%
	不定期旅客運送収入	106	0.6%	37	0.2%	△64.7%
小計		18,921	99.8%	19,442	99.7%	+2.8%
附帯事業収入		42	0.2%	66	0.3%	+57.9%
合計		18,963	100.0%	19,509	100.0%	+2.9%

輸送実績

	2018.3期2Q累計	2019.3期2Q累計	前期比
有償旅客数（千人）	775	794	+2.4%
有償旅客キロ RPK（百万人・km）	746	764	+2.3%
提供座席キロ ASK（百万席・Km）	1,000	1,010	+1.0%
座席利用率 L/F（%）	74.6	75.6	+1.0pt
イールド（円）	17.1	16.9	△ 0.2

費用・営業利益

・外的要因（原油・為替）で5.6億円費用増

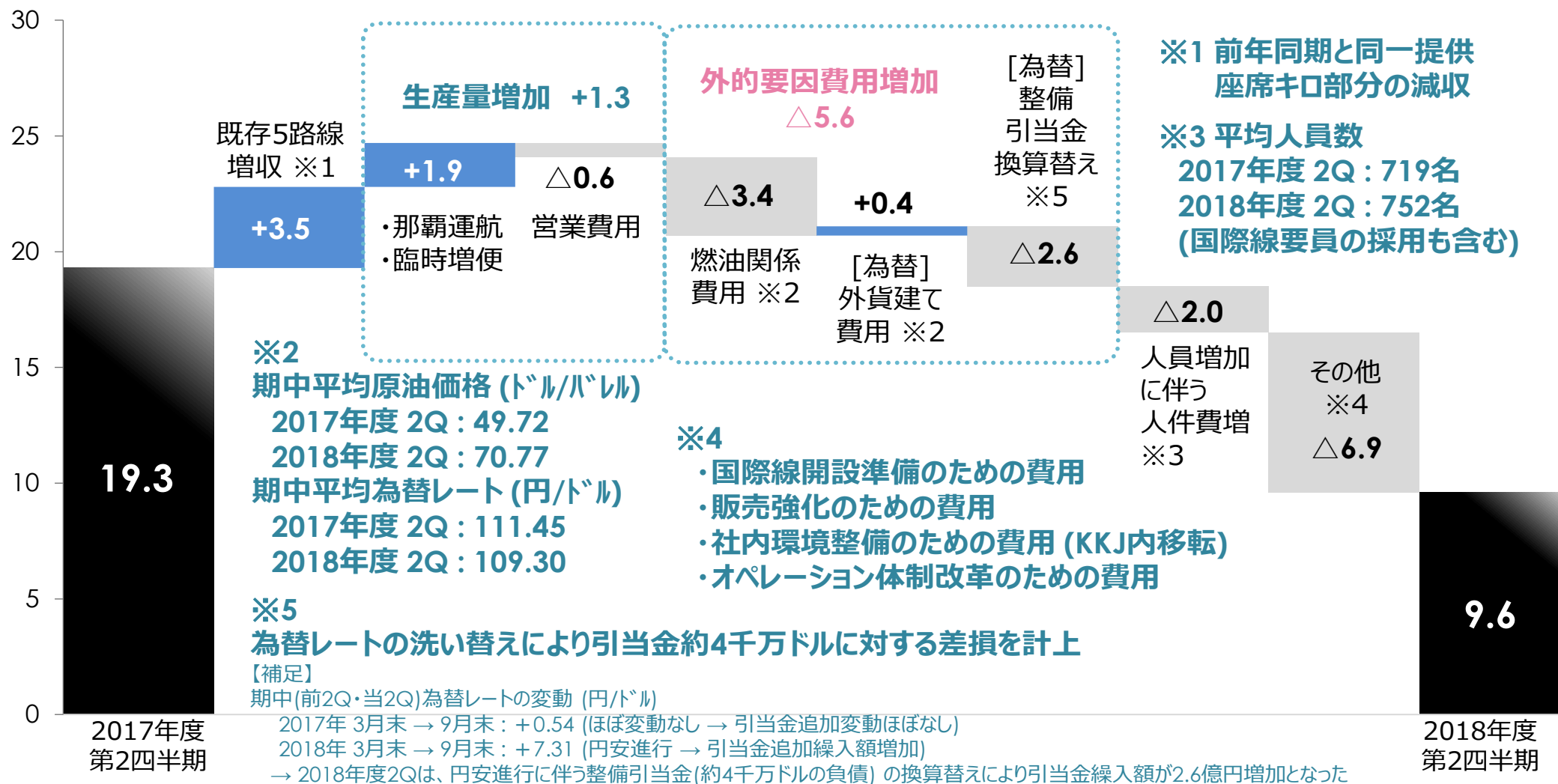
・国際定期路線展開のための初期費用発生、既存路線の販売強化、オペレーション改革・社内環境整備などにより費用増

(単位：百万円)

		2018.3期 2Q累計	2019.3期 2Q累計	増減額	増減率	
営業収入	営業収入	18,963	19,509	+546	+2.9%	
営業費用	航空事業費	航行費（空港使用料等）	7,239	7,688	+448	+6.2%
		うち燃油費および燃料税	3,661	4,049	+387	+10.6%
		整備費（整備外注費等）	2,694	2,994	+299	+11.1%
		航空機材費（賃借料等）	2,574	2,663	+89	+3.5%
		運送費（外部委託費等）	2,656	2,874	+217	+8.2%
	小計	15,165	16,220	+1,054	+7.0%	
	附帯事業費	17	29	+11	+62.0%	
	販売費	1,265	1,525	+260	+20.5%	
一般管理費	583	769	+185	+31.8%		
	合計	17,033	18,545	+1,512	+8.9%	
	うち償却費	701	777	+76	+10.8%	
営業利益	営業利益	1,930	964	△965	△50.0%	
ユニットコスト（円）		11.0	11.9	+0.9	+7.7%	

【営業利益】▲9.6億円 (2017年度2Q ⇒ 2018年度2Q)

単位：億円
(符号は利益に対して)



- ・2018年6月に航空機（自社機）を受領したことなどで、第1四半期に航空機材40億円を計上
- ・機材に係る新規借入れ20億円でLoan to Value を抑制
- ・自己資本比率およびネットD/Eレシオ 悪化

(単位：百万円)

	2018.3月末	2018.9月末	増減額
総資産	24,783	28,651	+3,868
純資産額	8,116	9,109	+993
自己資本比率	32.8%	31.8%	△1.0pt
有利子負債残高	6,080	9,588	+3,507
ネットD/Eレシオ(倍)	3.1	3.5	-

※ ネットD/Eレシオ = (有利子負債(A) + 調整額(B) - 現預金) ÷ 純資産

有利子負債(A) : 借入金、リース債務

調整額(B) : 解約不能オペレーティングリースの未経過リース料

- ・税引前四半期純利益の半減、前年度分の消費税支払いなどのために営業キャッシュフローは大幅減
- ・2018年6月の航空機（自社機）受領に係る投資・借入れにより、投資キャッシュアウトと財務キャッシュインが増加

(単位：百万円)

	2018.3期 2Q累計	2019.3期 2Q累計	増減額
営業キャッシュフロー	3,096	△ 512	△3,609
投資キャッシュフロー	△ 1,073	△ 3,842	△2,768
財務キャッシュフロー	△ 742	3,450	+4,193
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	1,287	△ 837	△2,125
現金及び現金同等物	6,217	6,504	+286

Ⅱ. 2019年3月期 通期業績予想

STARFLYER

- ・上期はほぼ想定どおり、好調に推移
- ・下期の前提となる原油価格を変更
- ・下期は国際定期路線就航で上期に比べ大きく減益

(単位：百万円)

	2019.3期 当初計画	2019.3期見通し		2018.3期 通期実績	
		下期 想定値	通期		
営業収入	39,700	20,190	39,700	38,095	
営業利益	1,200	235	1,200	2,870	
経常利益	1,100	106	1,100	2,733	
当期純利益	1,000	518	1,000	1,878	
EPS (円)	348.99	180.88	348.99	655.71	
一株配当 (円)	10	10	10	20	
営業利益率 (%)	3.0%	1.2%	3.0%	7.5%	
実績・前 提条件	ドバイ原油価格 (ドル/バレル)	63.00	73.00	71.89	54.90
	円ドル為替レート (円/ドル)	110.0	110.0	110.0	111.4

* 下期 想定値は、通期見通しから上期実績を控除した単純差額として算出

通期業績予想の修正は行わない

通期業績予想の当初公表後、新たに発生した重要事象は下記のとおり

**福岡＝台北線
就航断念**

当初予定していた福岡＝台北（台湾桃園）路線の就航を断念
収入減少の一方で運航コストも減少するため収支への影響は軽微

**JA05MC
リース継続**

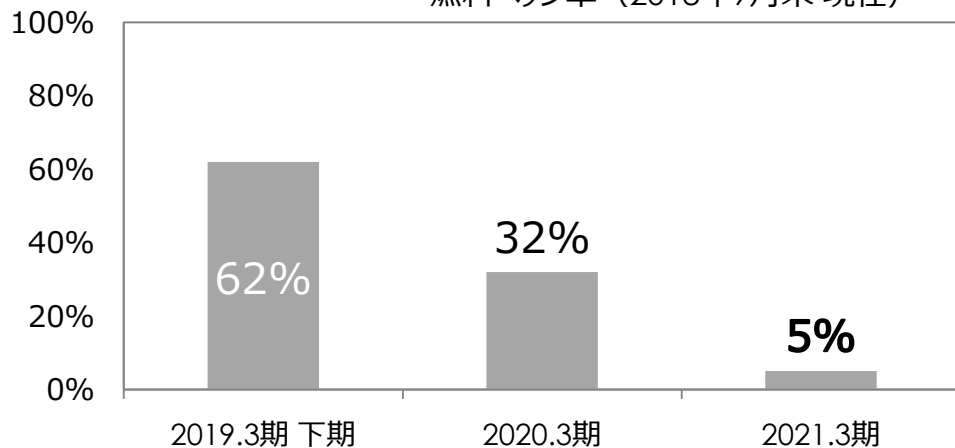
2019年1月返還予定であったリース機材（JA05MC）のリース期間延長決定
当該機材に係るリース料などの航空機材費や整備費が2019年1月以降も発生

**原油価格
高騰**

原油価格は期初から上昇傾向で推移
当下半期における業績予想の前提となる原油価格レート（ドバイ）を
63.0ドル／バレルから73.0ドル／バレルへ変更

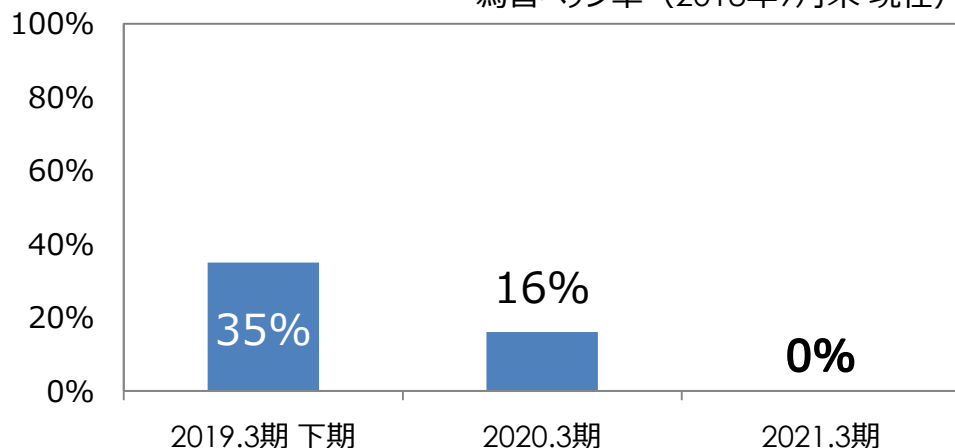
燃料ヘッジ

燃料ヘッジ率 (2018年9月末 現在)



為替ヘッジ

為替ヘッジ率 (2018年9月末 現在)



	2019.3期 2Q累計(実績)	2019.3期 下期 想定値
ドバイ原油価格 (ドル/バレル)	70.77	73.0

【原油価格相場感応度】

1 バレル当たり+ 1 米ドルの変動により、第3四半期から第4四半期の6ヶ月間において燃油費に18百万円の影響を受ける可能性があります。

	2019.3期 2Q累計(実績)	2019.3期 下期 想定値
円ドル為替レート (円/ドル)	109.30	110.0

【為替相場感応度】

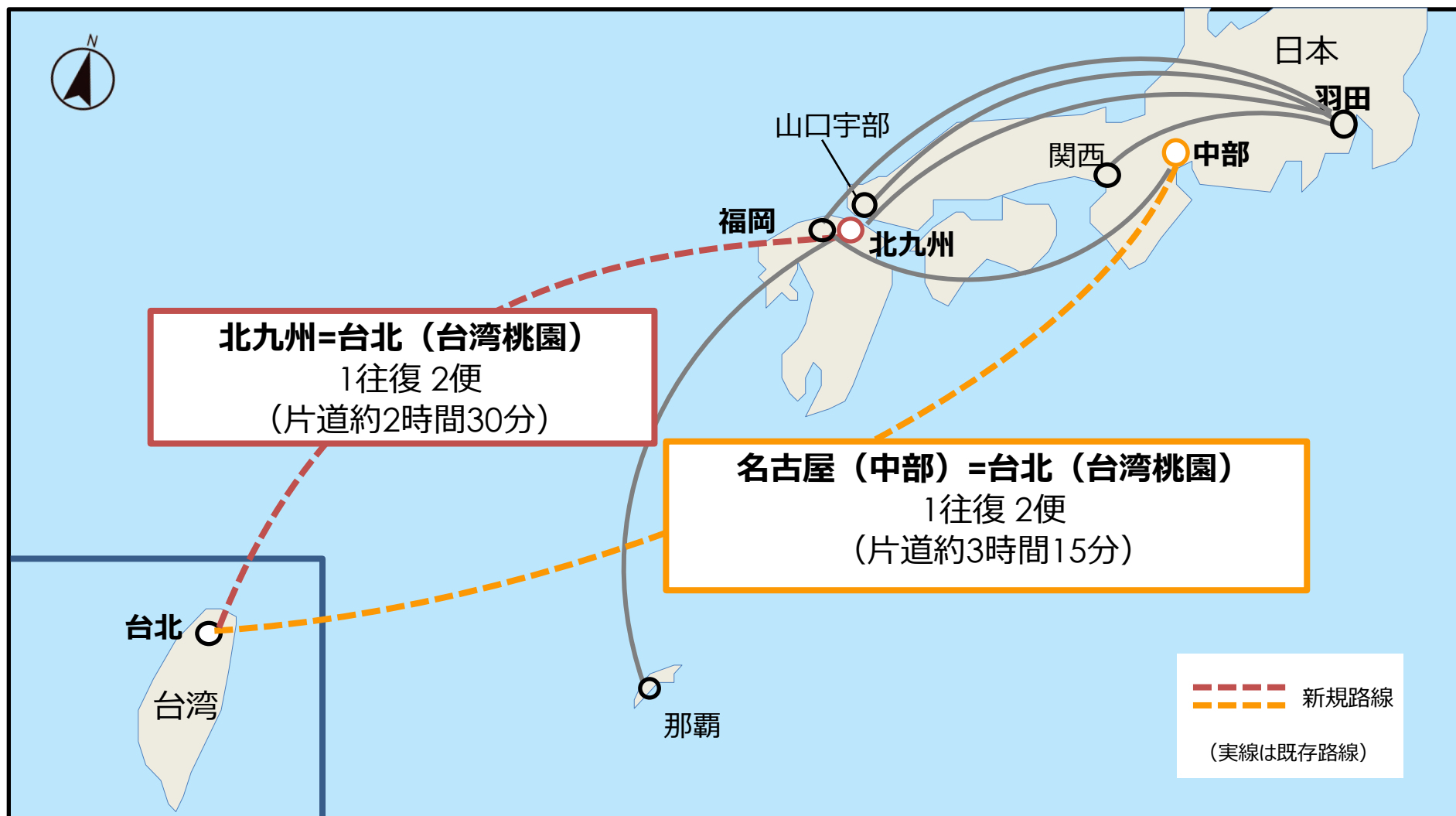
1 米ドル当たり 1 円の変動により、第3四半期から第4四半期の6ヶ月間において燃油費、航空機材費等に47百万円の影響、経常利益段階では36百万円の影響を受ける可能性があります。

Ⅲ. 台北線開設

STARFLYER

<新規国際定期路線>

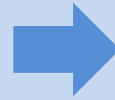
北九州・名古屋（中部）の2空港から台北（台湾桃園）へ就航



台北線参入にあたっての課題

実施内容

日本国内における知名度の低さ



知名度がとりわけ低い中部エリアで広告大量出稿
名古屋駅周辺の広告展開、中部国際空港とタイアップしたイベントを開催

海外就航地における知名度の低さ



同一就航先から日本国内に複数路線を展開することで、知名度の早期向上を図る

国内外の競合他社との競争



価格競争には加わずに、「国内線同様、量より質のサービス」にこだわり、物品を選定

SFJの特色(強み)



顧客満足度9年連続 第1位

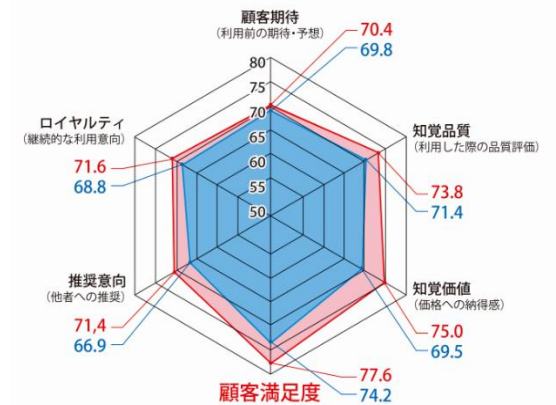
2017年度JCSI(日本版顧客満足度指数)調査 国内航空

日本版顧客満足度指数とは

日本版顧客満足度指数(JCSI:Japanese Customer Satisfaction Index)は日本最大級の顧客満足度調査。

統計的な収集方法による12万人以上の利用者からの回答をもとに、「顧客満足度」をはじめとする6つの指数により、各業界・各企業のサービスを多面的に評価・診断。

■ スターフライヤー
■ 業界中央値



※国内航空業種では9年連続第1位、国内長距離交通では8年連続第1位

- ・当初予定していた福岡＝台北（台湾桃園）路線の就航を断念
- ・収入減少の一方で運航コストも減少するため収支への影響は軽微

(単位：百万円)

販売計画

	2019.3期 当初計画	2019.3期 見通し
定期旅客運送収入	1,154	853

(単位：百万円)

輸送計画

	2019.3期 当初計画	2019.3期 見通し
提供座席キロ ASK (百万席・km)	233	165

(単位：百万円)

主な投資初期費用

	2019.3期 当初計画	2019.3期 見通し
旅客システム等IT関係 (投資)	62	83
旅客システム等IT関係 (費用)	108	114
販売費 等	314	230
人件費 (就航までに発生するもの)	32	31

END

本資料に関するお問い合わせ先:

☞ 株式会社スターフライヤー
経営企画本部財務経理部 IR担当
(ir@starflyer.jp)